

## 7 長岡赤十字病院における後期専門研修の現状

金子 兼三

長岡赤十字病院

### Senior Residents in Nagaoka Red Cross Hospital

Kenzou KANEKO

*Nagaoka Red Cross Hospital*

#### 要 旨

平成 18 年度より専門とする分野の学会の専門医，認定医の資格取得を到達目標とする後期研修医を公募し，5 名の内科後期研修医を採用した。5 名中 3 名は平成 16 年 3 月新潟大学医学部を卒業し 2 年間の前期研修修了後に応募した者で，1 年目は認定内科医の資格取得のため内科各分科をローテート研修中である。研修開始半年後に実施したアンケート調査により，今後個々の研修医の要望に応じられる複数の研修プログラムを検討する必要があることが判明した。残りの 2 名は平成 16 年以前の他県の医学部卒業生で，すでに認定内科医の資格取得のための受験資格を有しているため，希望する専門研修を開始している。今後も意欲ある指導医を確保することにより後期研修を募集する臨床科を増やし，魅力ある研修プログラムを提示して，一人でも多くの若手医師が当院での後期研修を希望するよう努力していきたい。

キーワード：Senior Resident

#### はじめに

平成 16 年 4 月新臨床研修制度発足にあたり，“新臨床研修制度は病院が大学にのみ頼ることなく，必要とする医師を育成し，確保できる千載一遇の制度である。長岡赤十字病院は可能な臨床科より後期研修医を募集する”との判断のもとに，平成 18 年度より後期研修医の募集を開始した。本稿では当院の後期研修制度の現状について報告する。

#### 長岡赤十字病院の後期研修制度

長岡赤十字病院の後期研修制度の概略を表 1 に示したが，平成 17 年 6 月より平成 18 年度後期研修医をホームページで公募した。当院の後期研修の到達目標は専門とする分野の学会の認定医・専門医の資格を取得することとしたため，後期研修募集科の基準は，1) 専門学会の教育・研修施設に認定されていること，2) 後期研修医を募集することを新潟大学の出身医局と話し合い，同意を得ていることの 2 つの条件を満たす科ということになり，現在の募集科は表 1 の如くである。後期

Reprint requests to: Kenzou KANEKO

Nagaoka Red Cross Hospital

2-297-1 Senshu,

Nagaoka 940-2085 Japan

別刷請求先：〒940-2085 長岡市千秋 2-297-1

長岡赤十字病院

金子 兼三

表1 長岡赤十字病院の後期研修制度(概略)

- 
1. 応募資格：卒後3年目以降の医師
  2. 研修の到達目標  
専門とする分野の学会の専門医、認定医の資格を取得する
  3. 後期研修医を募集する臨床科(平成18年度)
    - 1) 内科：消化器内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科  
腎臓・膠原病内科、神経内科
    - 2) 小児科(新大小児科より承認、指定された者)
    - 3) リウマチ科(内科系、整形外科系)
    - 4) 脳神経外科(新大脳神経外科に入局することが条件)
    - 5) 心臓血管外科 6) 呼吸器外科 7) 泌尿器科
    - 8) 産婦人科 9) 救急部 10) 病理部
  4. 後期研修プログラム  
認定医・専門医の資格取得のため、学会が定めた受験資格の内容に沿った臨床研修を行う
  5. 研修期間：一年毎の契約更新とし、最長5年間
  6. 募集人数：若干名
  7. 採用方法：面接試験
  8. 身分・処遇  
嘱託医師、給与：日本赤十字社給与要綱に準じて支給
- 

研修医を募集しない科に理由を問うと、1) 大学の医局との調整が困難(強行した結果、医局との関係悪化は困る)、2) 指導医不足、3) 学会の教育・研修施設に認定されていない、4) 研修に必要な特殊診療機器や特殊症例が不足、5) 後期研修医を採用するとその分大学からの出張医が減らされる可能性が大で、医師の増員に繋がらない、6) 若い医師は大学で研究、研修した方が将来よい医師になる、などが挙げられた。後期研修プログラムは各学会の認定医・専門医の資格取得のための受験資格を得るために、学会が指定した内容に沿った研修をすることになり、当院独自の研修プログラムは設定していない。ただ内科後期研修では各分科の専門医の資格を取得するために、まず認定内科医の資格を取得する必要があるため、後期研修1年目(卒後3年目)は消化器内科、循環器内科、呼吸器内科を研修必須科とし、それに

研修医の希望も考慮して決められた1~2分科の研修を合わせて行うローテート研修プログラムを提供している。

#### 平成18年度採用した後期研修医

平成18年度は公募により内科後期研修を希望する5名を全員採用した(表2)。そのうちの3名は平成16年卒で前期臨床研修を修了した者であり、前期研修病院は2名が当院、1名が新潟県立中央病院であつた。残りの2名は平成12年と平成15年の医学部卒業生で、すでに認定内科医の受験資格を有しているため、4月より希望する腎・膠原病内科と糖尿病・内分泌内科の専門研修を開始している。2名とも富山医科薬科大学ならびに山形大学医学部を卒業後、他県の病院で旧制度による前期研修を修了した者であり、後期研修

表2 平成18年度採用した後期研修医5名

研修医(出身地)	出身大学	卒業年次	前期研修病院	専攻科
M・男(福岡県)	新潟大学	平16	長岡赤十字病院	内科一般
B・女(岩手県)	新潟大学	平16	長岡赤十字病院	内科一般
K・男(新潟県)	新潟大学	平16	県立中央病院	内科一般
I・男(茨城県)	富山医薬大	平12	鹿島労災病院	腎・膠原病内科
H・女(新潟県)	山形大学	平15	公立昭和病院	糖尿病・内分泌内科

制度を実施することにより新潟県で2名の内科医を増員出来たことになる。

#### 後期研修医に対するアンケート調査

後期研修開始後半年が経過した時点で、今後の研修システムの検討、改善に役立てるために、後期研修医5名を対象にアンケート調査を実施した。

問1) 後期研修病院として当院を選択した理由(二項目を選択)では、「症例が多い」が5名全員で、次いで「指導体制が充実」が3名、「先輩の勧め」が1名、「その他」が2名であった。「その他」の内容は①出身地であると、②当院のS先生の指導が受けられる、であった。「研修プログラムが充実」は残念ながら0名であった。

問2) 半年間の後期研修の評価では、「満足」が3名、「やや不満」が2名で、改善すべき点として研修方法を挙げている。

問3) 充実した研修となるための要望や提案で

は、内科後期研修1年目の研修に関して、現行の研修プログラム(前述)では忙しすぎ、受け持ち患者数や疾患に片寄りが生じ、経験したい症例や検査を希望通り研修できないとし、①消化器内科・循環器内科・呼吸器内科の3必須科を4ヵ月ずつ研修するほかに、希望科を一分科ずつ選び、希望する期間研修する案や②希望する分科を単独で3~4ヵ月ずつ(1年間で4~3分科)研修する案が提案された。今後検討の予定である。指導体制や処遇については満足しているとの回答であった。

問4) 卒後3年目の3名を対象とした平成19年4月認定内科医受験資格取得後の研修方針についての質問では、1名より「現時点では2年目以降も当院で後期研修を続けるつもりである。将来は出身地に戻りたいが、それまでは症例が多く、高度の医療を実践している当院で臨床能力を高めたい」との回答を得たが、残りの2名は未定との回答であった。